

開業半年日々雑感

さわやか整形クリニック 上原 貢 (13期生)



同窓生の皆様、こんにちは。今年4月1日に那覇市田原で整形外科を開業した上原貢と申します。開業して半年が経過し、ようやく落ち着いて物事を考えられるようになりました。そういうときに本原稿の依頼があり、お受けすることとなりました。既に開業されている先輩の先生方には自明の理とは思われますが、開業してまず思うことは適切な医療を十分に患者さんに行い、治療効果を発揮させ患者さんの苦痛を癒すという本来の業務に加え、経営者にもなったということです。開業した以上、収支も考えなくてはいけません。実のところ勤務医時代は医療経済についてほとんど考えてはいませんでした。お恥ずかしい話ですが初診料や再診料等も把握すらしていませんでした。医療点数について本当に一からの勉強となりました。いい医療をして地域に役立つ、支持され得る開業医を目指さなければ、現在の医療状況から考えると患者さんは来てくれません。患者さんが来ないと倒産する可能性もあります。従業員や家族が路頭に迷うという状況も作りかねません。勤務医時代には全く無かった次元の異なる重いプレッシャーを感じております。また人事、労使関係も生じます。他にも経理、税理等、きりがありません。初めてのことばかりで試行錯誤の毎日です。しかし色々な出会いや他業種の方々との関わりもあり医療以外の面についても何とかなるようになっております。

勤務医時代の専門領域は、整形の中でも主に外

傷や手の外科でした。外来診療では手術適応や急性期の患者さんを診ることがほとんどでした。保存的治療やリハビリがメインの患者さんはその地域の開業の先生方によく御紹介しておりましたが正直な所、その後のことはあまり意識していませんでした。ところが開業後はその保存療法がメインとなります。手術適応まではいかない慢性疼痛で悩まれる方がほとんどです。また整形に関係のなさそうな腹痛やカゼでも患者さんは受診されます。そういった患者さんの病態を的確に診療し、その背景や経済状況も鑑みて早急に悩みを取り除く、或いは痛みが取れなくても患者さんを満足させることがやはり大事なんだと再認識しております。また自分の知識の及ばない、或いは手術適応の患者さんは早急に高次の医療機関へ紹介することを心がけています。そうすることで結果的に地域に支持され、信頼され、経営も安定する医院になるのだと考えております。もちろん日々進化する医療知識や技術にcatch upすることも大事ですが。

患者さんが良くなって笑顔が見られるときはやりがいを感じ、なおらないとって来たときはプチショックを感じる毎日です。当院で治療、リハビリを行い、元気になって歩ける様になりました、と患者さんや家族に感謝されるクリニックを目指しております。以上、とりとめのない稚拙な文となりましたが開業報告とさせていただきます。

最後に、皆様どうぞ機会がありましたら御指導、御鞭撻のほど宜しくお願いします。